

<霊的備え>

御名を知る者は あなたに拠り頼みます。主よ あなたを求める者を
あなたは お見捨てになりませんでした。主にほめ歌を歌え シオンに住まうその方に。
主のみわざを告げ知らせよ 国々の民に。 (詩篇 9:10—11)

<理解の手引き>

神は、罪を犯した人間に「あなたは、どこにいるのか」と呼びかけられました。すべてをご存知の神が、このように質問されたのは、人の「存在」の在り方を問いかけられたのです。つまり、神との関係において、どのような状態にあるのかを問われたのです。

神は人とその妻がなした「行動」よりも先に、神の前における立場、あるいは在り方を問題にされたのです。つまり、この問いによって、彼らが神から迷い出ている存在であることを自覚し、その罪を悔い改めることを求められたのです。

しかし、人は神から身を避けようとしてしました。そればかりか、人は自分の罪を女に、更には、神に転嫁しようとし、女は自分の罪を蛇のせいにしようとしたのです。これが罪を犯した人間の姿でした。

<考えてみよう>

(観察) 神の呼びかけに対して、人とその妻はどのような反応を示しましたか？

.....
.....
.....

(解釈) 全知の神が何故、このようなこと(9節)をわざわざ人に尋ねられたのでしょうか？

.....
.....
.....

(適用) ここから、罪についてどのようなことを知ることができますか？

.....
.....
.....

<心に残ったみことばや気づき>

.....
.....
.....

<今日の祈り> (教えられたことを短い祈りで表す)

.....
.....
.....